



生徒が地域活性化のアイデアを披露した報告会

三戸

地域資源の活用方法 三戸高生が報告

地域活性化プロジェクト

青森県立三戸高(豊川武伸校長)の生徒が、持続可能な開発目標(SDGs)の視点から考案した地域活性化プロジェクトの報告会がこ

のほど、同校で開かれた。生徒は三戸高の魅力化や町内会振興、イベント出店などのアイデアを発表し、地域資源の活用法を示した。

県教委の「あおもり創造学プロジェクト事業」の一環。3年生30人が9グループに分かれ、4月からそれ

ぞれ設定したテーマを探究した。報告会には八戸学院大地域経営学科講師の井上丹さんや、探究活動に協力した三戸町まちづくり推進課の職員らが来場。生徒はスライドを使いながら順番に成果を発表した。

城山公園の秋のライトアップ期間に、地域特産のリングを使ったカップケーキを販売するアイデアを披露したグループの大向沙弥さん(17)「田子町」は、「イベントを盛り上げるために自分たちができることはないかと考えた。販売へ向けて試作品作りに取り組みたい」と意気込んでいた。

(上條哲洋)